

遠野人

★筆者 はせがわ ひろし 長谷川 浩

遠野市立博物館主査兼学芸員。1972年、茨城県小美玉市生まれ。遠野に移住し25年。博物館の展示を通して、遠野の文化発信に努めている。



遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報をお届けしています。今月は、『遠野物語』が発刊されたころのお話です。

遠野といえば『遠野物語』をまず頭に思い描く人が多いのではないのでしょうか。『遠野物語』は、平成22年(2010)6月14日に発刊100周年を迎えました。遠野市内外でさまざまなイベントを行い、テレビやラジオ、新聞などで多く取り上げられましたので、記憶に残っている人も多いと思います。



大正時代の一市通り

『遠野物語』は、明治43年(1910)6月14日に柳田國男によって発刊された日本民俗学の出発点となった本です。119話の遠野の話が記されており、その多くは江戸時代から明治時代に遠野で起きた出来事や言い伝えをまとめたものです。

『遠野物語』が書かれた明治時代の遠野は、内陸と沿岸部を結ぶ交通の要衝でした。月に6度行われた市の日は、沿岸や内陸からさまざまな物資を運ぶ人や馬で町はにぎわい、「人千人、馬千匹の賑わしさ」「蜂の巣をつついたような」と形容されたほどでした。沿岸からの荷物は海産物が多かったため、荷を傷めないように沿岸を夕方ころに出発し、明け方までに遠野の市場に到着するように運ばれました。当時は馬に荷をつけて運ぶ駄賃付けと呼ばれる人々が活躍していましたが、遠野に入るためには、必ず夜の峠を越えなければなりませんでした。

遠野の町に初めて電気が通ったのは今から約100年前の大正2年(1913)です。その時のことが、『遠野市史』に次のように書かれています。「明治天皇が亡くなられた翌年の秋のある晩、家族全員がランプの下で晩御飯を食べていたところ、突然、頭の上に向けていた電燈が、ぱっと音をたてんばかりについた。皆が思わず、あっと声を上げて総立ちになった。そして聞きし

にまさるその明るさに驚いた」。

『遠野物語』に書かれている世界は電気がない時代のことでしたから、夜とえば今では想像できないくらい深い闇の世界だったのです。獣の鳴き声、風の音、木々のざわめき…その一つ一つがさまざまな怪異を生み出すきっかけになったのではないのでしょうか。そうした話は市に買い物に来た人々に伝わり、町から周辺の村々に伝えられたのでした。

また、城下町、早池峰山を中心とした修験者の活躍や北上山系に広がる金や鉄の鉱山などによって全国からさまざまな人が集まり、多くの話を遠野に伝えていきました。これらの話の集まりが『遠野物語』となっていったのです。

現在の遠野は田園風景や民話、日本のふるさとのイメージが強く、駅前の様子を見て、イメージと違うとがっかりする観光客もいるようです。しかし、遠野は古代から北上高地の中心地として発展し、江戸時代には遠野南部家12,500石の城下町として繁栄。明治時代には、郡役所や裁判所などさまざまな官公所がつけられました。人々にぎわう町であったからこそ、さまざまな話が伝わり、『遠野物語』が生まれたのです。

来年の『遠野物語』発刊110年に向けて、さまざまなイベントを開催しますので、多くの人に参加いただければと思います。

★講座のお知らせ

遠野市立博物館秋季企画展 こしまこう 小島功原画展

美人画で独特の世界を創り、10代の頃から漫画家として活躍。河童の絵でも親しまれている小島功氏の原画展を開催します。

- ◆日時 11月1日(金)～24日(日)
- ◆場所 遠野市立博物館
- ◆特典 今月号の広報持参の場合、2名まで無料で見学できます。



★問い合わせ: 遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp

シンポジウム

曲り家千葉家から創る未来 ー世紀の大修理その後を考えるー

「永遠の日本のふるさと遠野」を象徴し、国の宝でもある「重要文化財千葉家住宅」。平成28年度から始まっている世紀の大修理も折り返しに差しかかりました。令和7年度のグランドオープンに向けて、重文千葉家の活用を考える会を中心にその活用を検討しています。

無限の可能性を秘めている「千葉家」から、私たちはどんな未来を創っていくのか。さまざまな視点から考えます。

日時 **11月4日(月・振休)**
13時半～16時半(13時開場)

◆会場 あえりあ遠野交流ホール

- ◆内容
- ①遠野遺産認定証交付式
 - ②報告 「重文千葉家の活用を考える会が描く未来構想」
 - ③パネルディスカッション 「曲り家千葉家から未来の文化・観光・地域づくりを考える」
- ※内容は変更する場合があります

◆問い合わせ 市文化課(☎62-2340内線325)

◆特別講演 「日本の原風景を辿る」

講師 やすき 上原 康樹 氏

◎Profile
岩手県議会議員/
元NHKアナウンサー



伊香学のチャタナーガNOW! Vol.17

米国チャタナーガ市との交流を、派遣職員・伊香がお伝えします!

姉妹都市締結2周年記念イベントを開催

遠野市とチャタナーガ市の姉妹都市締結(9月15日)から2周年を記念したイベントを9月9日、チャタナーガ市役所で開催しました。長年の交流の歴史や遠野を紹介するパネル展示、緑茶の試飲会を実施。訪れた多くの市民や市職員に両市の絆と遠野や日本の文化、魅力を伝えることができま

した。緑茶の試飲では、「No Sugar!?(砂糖は入れないの!?)と異文化ならではの反応も見られ、たくさんの人に興味を持ってもらいました。イベントは、チャタナーガ姉妹都市協会の遠野担当、ルイーザ・メシッチ副会長と同協会のリンダ・アレン会員の協力により実現することができました。



1・2 訪れた市民らに両市の交流の歴史や遠野と日本の文化を紹介しました 3 イベントに協力いただいたリンダ・アレンさん(左)、ルイーザ・メシッチさん(中右)、チャタナーガ市役所の最高執行責任者マウラ・サリバンさん(右)ら

